編集後記

アラヨ！

昭和36年に、当時新人であった私は「報告No.1」を受け取り、信州大学松本山岳部の歴史を感じ、山登りにのめり込んで行きました。昭和39年になり、リーダーとして伊那松本山岳部を率いることになり、「報告No.2」を出版しなければということで、報告係を設けましたが、ズクなしでなにもせず卒業してしまいました。その後、OBになってからも、そのことが頭の片隅に残っており、何とかしなければといつも思っておりました。

何年か前に、岡村知彦君が「報告No.2」を出そうということで、資料集めに奔走してくれましたが、このときも半ばで頓挫せざるを得なくなってしまいました。そのときの資料がきちんと整理されており、今回の作成時には随分と助かりましたことを皆さんにまずご報告申し上げたいと思います。故山田哲雄先生の遺稿もそのときのものであります。

45年ぶりに「報告No.2」作成しようというきっかけは、西郡委員長の呼びかけもありましたが、平成17（2005）年のOB会の後、小川・扇能山荘での飲み会の席でした。紅顔可憐な学生であったOB諸兄も、髪に白いものが混じる歳となった今、この時を外すともう出版はおぼつかないとの全員の思いから一気に機運が高まったのであります。

私としても、人生のなかで、よき友人を得た山岳部に対する感謝の思いと、また帰らぬ人となった先輩、同僚、後輩のためにも、これは不退転の気持でやらねばならない一大事業だと思いました。

とき同じくして、信大山岳会のホームページが作成され、過去の記録はそこで閲覧できるようになりましたので、「報告No.2」では、その年代がどのような山行を志向したかリーダーの総括と可能な限りOB諸兄の思い出、雑感、回想を重視しました。山岳遭難者や病没者の追悼では、今は無き岳友の在りし日の姿とその足跡を偲びました。酒を飲み交わすとき、歌を唄うとき、彼らと行った山行を懐かしんで頂ければと思います。第三者の目から見れば、いろいろなご批判があるとは思いますが、伊那松本山岳部の山行のあり方や人間模様の一部でも汲み取っていただければ幸甚です。なお、寄稿していただいたご本人の原文を重視いたしましたので表現方法の不統一感を持たれる方もいらっしゃると思いますがご容赦願います。

OB諸兄に無理やり忘却の彼方の記憶を呼び起こしてもらいながら、昔の計画書や報告書を探し、編集委員長の西郡光昭、編集委員の故小川勝、宮崎敏孝、駒井浩、扇能清、武藤一郎、井関芳郎、小根田一郎、大安徹雄、吉田秀樹、師田信人、助っ人である葛西正美、寺田雅治、板谷真人、金子鉄男、故御子柴三男君のご子息・雄一君のご協力を得て、何とかここまでたどり着いたことに感謝いたします。

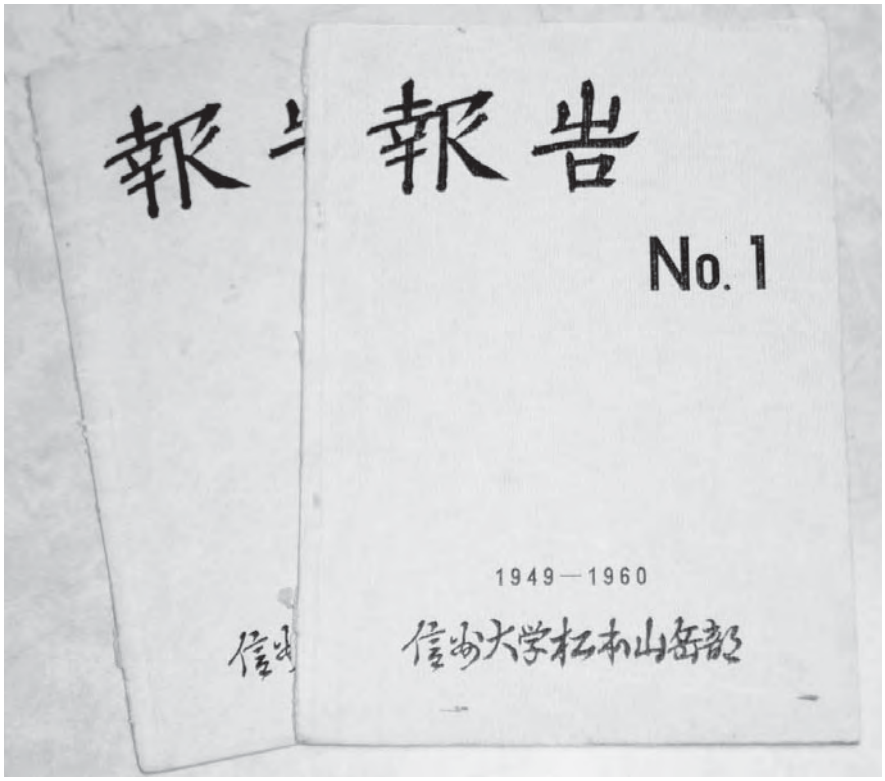
特に平成19年1月26日に急死された小川勝君は、会社の会議室の提供や原稿のチェック、写真の整理、印刷会社との折衝等多大な努力をしてくれましたことを皆様のご記憶に留めておいて欲しいと思います。この報告が出来あがるのを非常に楽しみにしていた矢先でしたので、きっと心残りだったと思います。追悼のページにまさか彼のことを追加するなんて考えもしませんでした。今は彼のご冥福を心から祈りたいと思います。

最後になりましたが、多大なご寄付を頂いたOB諸兄に感謝いたします。また、「報告No.2」の出版に絶大なるご協力頂いた株式会社クイックス社長で信大OBの岡本戡紘さん、同社スタッフの藤田幸子さんにも感謝申し上げます。

そして、小川勝君をはじめ亡くなった信州大学山岳会伊那松本山岳部の関係者の皆さんに、心より哀悼の意を表するとともに、この「報告No.2」を捧げます。

（松尾武久記）

昭和 36 年 12 月 1 日に発行された「報告 No.1」は B5 版で全 51 ページ、次のような目次となっている。



信大松本山岳部小史
　SMAC の生まれるまで　　矢野想之輔
　SMAC 発足以降　　小林喜芳
特集／春山合宿記録
　昭和 28 年 3 月　針ノ木サポート隊記録
　昭和 29 年 3 月　利尻岳遠征記録
　昭和 33 年 3 月　後立山全山縦走記録
　昭和 34 年 3 月　横尾尾根—奥穂記録
　昭和 35 年 3 月　常念東尾根—槍記録
　春山雑感　　山田和彦
今年も上高地の気分を味わった話　　野口秋人
思い出すままに　　柴田　治
リーダーは新人に水を飲ませない　　茅野文利
年報記録　昭和 24 年度（1949）－昭和 35 年度（1960・12）
　グラフ　横尾尾根より槍ヶ岳＝坂本正邦
　　三峰リッジより北壁・D フェース＝坂本正邦
　　長柵尾根下り＝中込弥男

春寂寥

１、春寂寥の洛陽に
　昔を偲ぶ唐人の
　傷める心、今日は我
　小さき胸に懐きつつ
　この花陰にさすらへば
　あわれ悲し逝く春の
　一片毎に落る涙

２、嵐は山に落ち果てぬ
　静けき夜半の雪崩れ
　榾の火赫くさゆらえば
　身をうち寄する白壁に
　冬を昨日の春の色
　あわれ床し友どちが
　あかぬまどいのもの語り

報告 No.2

●発行日：2007 年 6 月 27 日
■発行者：信州大学伊那松本山岳部報告 No.2 編集委員会
委員長　西郡光昭
■連絡先：事務局　松尾武久
〒 662-0813　西宮市上甲東園 2 丁目 5-5
電話番号　0798-51-6543
E- mail：4848-matsuo@mtf.biglobe.ne.jp
http://arayo.jp/
■印　刷：株式会社クイックス